

# 古書のたのしみ（令和五年五月）

土屋博

一「日本政記考證 乾坤」林正躬輯  
（京攝合梓、明治七年刊、七九丁十七六丁）  
古書價格各二百圓也。和綴。頼山陽の日本政記を読むための参考書。たとへば、神武天皇の箇所にては、漢の群國の兵にて宮内を衛らせたる事例、唐の元より従へる近衛兵を以て城を衛らせたる事例について詳しく解説す。

二「訂正増補 枕草子春曙抄 上下」鈴木弘恭先生訂正増補  
（東京書林青山清吉蔵版、明治二十六年刊、各定價金三十錢、七四丁十七一丁）  
古書價格各五百圓也。北村季吟（一六二五年生れ、一七〇五年歿。江戸前期の俳人、歌人。芭蕉は門人。）の名著なり。ただし、上巻（巻一より巻四まで）と下巻（巻九より巻十二まで）のみにて、中巻は欠の状態なり。鈴木弘恭（一八四四年生れ、一八九七年歿。東京女高師、華族女學校の教師。）、緒言に曰く、「この草子のいとめでたくてはやくより世にもてはやさりしことは今さらにいふべくもあらず。その註釋どもさへにくさぐさあれども北村翁の春曙抄をもてよろしとすべし」と。「春はあけぼの」については、「まづ時節の景を書出たり。はるはよろづの物生ずる始めなれば發端にかけり。春は曙を賞していへる少納言の心あらはれて、枕草紙一部の形容もこもり侍るべし」とす。

三「鼈頭註釋 十八史略講義大全 上下」富本長洲先生講義  
（浪華書房、明治二十六年刊）  
古書價格各五百圓也。凡例に曰く、「此編は初學童蒙の爲に設けられたれば其體裁極て平易簡明にして讀者をして一目瞭然たらしむるを旨とす」と。

四「論文 日本政記講義」富本長洲先生講述  
（日新義塾蔵版、明治二十七年刊、三三二頁）  
古書價格五百圓也。凡例に曰く、「苟も國家に志しあるの士は一日之を讀まざれば鄙吝の萌しを生じ國家の大事を忽諸するに至る」と。

五「百人一首講義 全」佐佐木信綱著  
（博文館蔵版、明治廿八年再版、定價金貳拾錢、二九七頁）  
古書價格。初版は明治廿七年。

六 雑誌「小國民」合本

(學齡館、明治廿九年)

古書價格九百圓也。第八年の拾號より拾四號までの合本なり。

七「小倉百人一首 全」中村芳松編輯

(鍾美堂、明治三十五年刊、一二五頁)

古書價格五百圓。各首ごとに解説及び挿繪を附す。天智天皇の歌については、「秋の田の稲を番する爲に假にたてたる小屋の屋根に葺きたる苦の目が粗さに中に居る我が着物の袖が露にぬれてこまる事であると民になりかはりてよませたまひしなり」と。

八「東京遊行記」大町桂月著

(大倉書店、明治三十九年刊、正價金壹縁、六二四頁)

古書價格。桂月曰く、「東京市は十五區にわかる。その順は皇居をひかへたる麴町をはじめとし外郭に従ひて巴形にめぐる。即ち、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、浅草、本所、深川といふ順也。」と。

九「伊勢大和紀行 山陽真蹟詩歌帖

(鳩居堂、明治三十九年刊、卅二丁+廿四丁)

古書價格千八百圓也。帙入。毛筆の味はひ格別にして、印刷技術極めて高し。

十「日本文學史綱」畠山健編

(参文舎、明治四十年訂正再販、定價金參拾錢、本文七三頁)

古書價格百圓也。初版は明治三十九年。畠山健は東京高等師範教授。源氏物語については、「國文學上古今無比の至寶と称せんも過賞にあらざるべし。全篇を五十四帖に分ち前の四十四帖は光源氏といふ貴公子を主としてその得意の境遇を描き、且數多の才子・佳人を點出して一々その性格をあらはし、後の十帖は源氏の息たる薫大将を主とし、失意の境遇におきて其の父の得意の境遇に對照せしめたるものなり」と。

十一「評釋 桂月文粹」田中貢太郎編

(尚榮堂、大正四年再販、定價金五拾錢、四〇九頁)

古書價格九百圓也。初版は大正三年。田中桃葉は桂月の「筆のしづく」にある「柏木の閑居」を評釋し、「詩趣の豊かな清少納言の枕草紙を思はずやうな名文」とす。また、桂月の「田園雜興」については、「陶淵明の帰居來辭を思はせるやうな平靜な情調のある文章で、田山花袋の如きは桂月文中第一位に置くべき名篇とす」と。

十二「吉田松陰の留魂録」文學博士紀平正美著

(日本文化協会出版部、昭和十一年刊、定價貳拾五錢、一〇九頁)

古書價格二百圓也。松陰、安政末十月二十七日午前十時に処刑せらる。「留魂録」は前日の黄昏に書き了られたる由。冒頭には「身はたとひ武蔵の野邊に朽ぬとも留置かまし大和魂 二十一回猛士」の歴史的名文句あり。紀平正美は、一八七四年生れ、一九四九年歿。東京帝大文科大學哲學科卒、學習院教授、國民精神文化研究所部長を歴任。戦後公職追放。

十三「百人一首拾穂抄」北村季吟著

(新典社、復刻昭和五十二年、定價三千八百圓、二三四頁)

古書價格三百圓也。復刻版。

(令和五年十六日受附)